

けせんぬま

普及センターだより

ひとつずつ 明日と未来の なるさとへ!

■特集

- ・今年度の普及活動紹介
- ・管内初の「みどり認定」
- ・J-クレジット制度
- ・みえるらべる

■トピックス

- ・ぶどうせん定枝炭化実演会
- ・農業法人の事業承継研修会

■新農業士紹介

■令和7年度 職員紹介

今年度の普及活動紹介 (プロジェクト課題)

1 生食用ぶどうのブランド化による生産拡大

【対象】南三陸大粒ぶどう協議会 会員13人

令和5年11月に設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」は、南三陸町産ぶどうの認知度向上や栽培拡大を図るため、ぶどうの高品質化・ブランド化に向けた取組を行い、令和6年8月に新ブランド「しおかぜ葡萄」が誕生しました。普及センターでは、生食用ぶどうの更なる生産拡大による産地形成に向け、協議会の取組を支援します。



①販売力強化・PR支援

販売会の開催等によるブランドの認知度向上、販売促進に向け、地域の農産物直売所や南三陸スイーツ協会等との連携を支援します。

②栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

ぶどうの高品質化・付加価値向上に向け、栽培研修会の開催や巡回指導による支援を行うほか、環境にやさしい栽培技術及び省力化に資する先端技術の検証等を支援します。



新ブランド発足の様子

2 気仙沼・南三陸地域のクロマツ栽培者の育成と作付面積の拡大

【対象】株式会社南三陸Pine Pro、みやぎクロマツ研究会気仙沼市・南三陸町会員、栽培希望者

普及センターでは令和3年度から6年度まで枝もの用クロマツ（以下、クロマツ）の生産拡大による経営発展の支援を行い、10a当たりの若松の出荷本数を32千本（令和4年）から40千本（令和6年）に向上させることができました。令和7年度も引き続き、クロマツ栽培者の育成と作付面積の拡大に向けた支援を行います。

①クロマツの育苗方法検討

初期生育を確保するため、良質苗の生産方法を検討します。

②クロマツ生産技術の平準化支援

クロマツ栽培を開始した方や新たに栽培を希望する方への栽培技術の支援を行い、作付面積の拡大を目指します。



生育初期のクロマツ



令和7年に収穫予定のクロマツ

気仙沼管内で初の「みどり認定」が取得されました

令和7年3月25日、気仙沼市本吉町の株式会社サンフレッシュ小泉農園が気仙沼管内初となる環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）を受け、宮城県知事からの認定証が授与されました。

認定された品目は「トマト」で、「温室効果ガスの排出量削減」と「土壌を使用しない栽培技術の実施及び化学肥料・化学農薬の使用減少」に取り組む計画となっています。今回認定されたサンフレッシュ小泉農園では、これまでに太陽光発電による温室効果ガスの排出量削減や環境制御システムを導入した養液栽培など環境に配慮した農作物の生産に意欲的に取り組んでおり、今野圭市代表取締役は「今後も環境に配慮した持続的な農業に取り組み、消費者の認知を上げていきたい」と話されました。



※みどり認定とは…事業者が環境負荷低減に取り組む5か年の計画を作成し、県知事から認定を受けるもので、設備投資初年度における税制優遇、農業改良資金の無利子融資・償還期限の延長、国の補助事業で採択ポイントの加算などのメリットがあります。

J-クレジット制度のご紹介

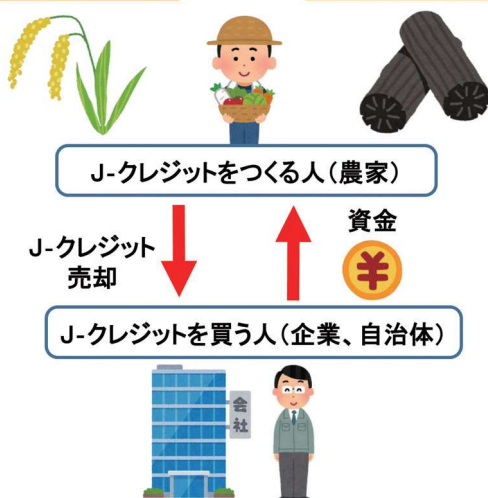
J-クレジット制度とは、水稻栽培における中干し期間の延長、バイオ炭の農地施用、施設園芸におけるヒートポンプの導入などにより削減した温室効果ガスの排出量や吸収量を「J-クレジット」として国が認証する制度です。

取り組むメリット

- ① J-クレジットは、企業や自治体に売却が可能です。売却によって得られた資金は、投資費用の回収や、さらなる省エネ投資へ活用できます。
- ② J-クレジット制度に関わる企業や自治体との関係を強化でき、ビジネス機会の獲得や、新たなネットワークの構築につながります。
- ③ 省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用により、ランニングコストの低減を図ることができます。

中干し期間の延長

バイオ炭の農地施用



J-クレジット制度ホームページにて申請手続きの詳細が掲載されておりますが、関心のある方は、当普及センターまでお問い合わせください。

「みえるらべる」のご紹介

「みえるらべる」とは、栽培中の温室効果ガス削減や生物多様性保全の取組を分かりやすく等級ラベルで表示したもので、生産者の努力を一目で消費者に伝えることができます。



対象品目は、米、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす、ピーマン、ほうれんそう、白ねぎ、たまねぎ、はくさい、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、だいこん、にんじん、アスパラガス、りんご、みかん、ぶどう、日本なし、もも、いちご、茶の計24品目になります。（令和7年4月16日時点）

取り組むメリット

- ① 温室効果ガス削減の取組や生物多様性保全の努力を消費者へ伝えることができます。
- ② 消費者の方々が「みえるらべる」が表示された農産物を選択できるようになり、これらを購入することで、環境負荷の低減に貢献することができます。

取り組み例

- 化学農薬・化学肥料の不使用、低減
- 水稻栽培における中干し期間延長
- 堆肥の連用
- バイオ炭の農地施用
- 残渣のすきこみ
- 魚類の保護、畦畔管理…など

「みえるらべる」の取得方法

- ① 農林水産省ホームページにて、温室効果ガス簡易算定シート利用者登録を行い、算定シートを入手します。
- ② 栽培データ・情報を算定シートに入力し、農林水産省へ送付します。
- ③ 受理完了後、対象の農産物や商品に等級ラベル表示が可能になります。

取得にあたり関心のある方は、当普及センターまでお問い合わせください。

トピックス

南三陸町でぶどうせん定枝炭化実演会が開催されました

南三陸町の南三陸大粒ぶどう協議会では、これまで焼却や野積み処分されていたぶどうのせん定枝を炭（バイオ炭）にして土壌に施用する取組を令和7年度から実施することとしています。この取組により、せん定枝に含まれる炭素を長期間土壌中に貯留させることで、温室効果ガス排出量を削減する効果が期待できます。



協議会では、令和7年2月14日に町内果樹園地を会場にせん定枝炭化実演会を開催し、無煙炭化器を使った炭化方法や取組の効果について学んだほか、消防署と町環境対策課から実施前の届出や火災防止、周囲への煙や臭いなどに注意する等の指導を受けました。参加した会員からは、「これまで処分に困っていたせん定枝を有効活用できる良い取組だ」などの前向きな声が多く聞かれました。

農業生産法人の事業承継に関する研修会を開催しました

令和7年3月10日、気仙沼市階上地区で水稲・大豆を生産している株式会社階上生産組合を対象に事業承継に関する研修会を当法人の事務所で開催しました。

講師のすずき労務経営コンサルタンツの鈴木大輔代表から、事業承継にかかる注意点や生産組合の経営分析結果等の説明をいただいた後、事業承継に向けた話し合いを行いました。

講師からは、スムーズな事業承継には経営理念が重要であり、事業承継の計画書を作成することが大事であるとのアドバイスがありました。



新農業士紹介

令和7年度に新たに認定される方を紹介します



宮城県指導農業士
三浦拓也さん（気仙沼市）

平成19年に就農し、東日本大震災により全壊したいちご栽培施設を復旧しました。JA新みやぎ階上いちご部会の部会長として「気仙沼いちご」の生産振興とメディアを利用した知名度向上にも尽力しています。

冬季でも最適な温度環境を保つ湯温管や、光合成の活性化を促すCO₂発生装置の導入により、効率的ないちご栽培を実現しています。更に、地元の高校生向けに課外授業を受け入れ、学生たちに農業現場を体験してもらうことで、農業への関心を高め、将来の担い手として育成にも貢献しています。

令和7年度 気仙沼地方振興事務所農業振興部・気仙沼農業改良普及センター 職員紹介

普及センター

新 技術副参事兼総括次長
遠藤 潤
【畜産】

所 長
佐藤 淳
【作物】

新 総括技術次長
降幡 泰永
【野菜】

よろしく
お願いします

先進技術班

技術主幹(班長) **新** 技術主幹
村主 栄一 足立 陽子
【花き】 【花き】

技 師
菊池 光洋
【野菜】

地域農業班

新 技術主査 技術次長(班長)
木村 智志 清水 俊郎
【野菜】 【畜産】

新 技 師
大野 萌依
【作物】

農業振興班

技術主任主査 技術次長(班長)
安藤慎一郎 鈴木 剛

新 技術主査 **新** 主 事
鈴木 香深 佐藤 颯太

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6 TEL：0226-25-8068 FAX：0226-22-1606
URL：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html

